

## 志度支部の紹介

支会長 石原光久

歳月の経つのは早いもので、志度支部が旧志度町文化協会として発足して二十一年が過ぎました。さまざまな時代を背景として、より心豊かな生活をエソジョイするため、その時々を、それぞれの団体、個人がひたすら文化活動に取り組んできました。

協調性を重視し、いかなる困難にも同じ目的意識を持つことで理解し合い、結果として「志度」独自の文化活動が根付いたと思いますし、団体、会員数も大きく膨らんでまいりました。

しかし、新しい時代、それは混沌とした不透明な時代と言ってもいいでしょうけれど、社会構造すべてが大きく変わろうとしている中で、これまでの常識そのものが通用しなくなっていることも事実として受け止めるかなければならないでしょう。文化活動そのものは行政と密着しているのです、切り離すことはお互いにマイナスだけれど、今後ますます自立していくことが余儀なくされると思います。個人が一定のレベルを保ちながら、そして、支持されながら活動をつづけていくには団体の存

在は重要ですし、団体としてのしつかりとした運営が求められることになるでしょう。

志度支部も高齢化していく中で、後継者の育成が急務となっており、活動を維持することが困難となり、脱会する団体も出てきています。志度支部の活動のみならず、さぬき市文化協会部門への参加も必要となるわけですから、相当のエネルギーが生じてくるのも事実です。所属する団体の内容によっては、片寄りがあると思われませんが、文化活動そのものも、質の向上を目指して有効に展開しなければ持続することがきびしくなっていくかも知れません。

本年度の、さぬき市民文化祭「志度支部祭」は、思わぬ台風の被害により、中止を余儀なくされたのは残念なことでした。すでに、文化祭開催のチラシを全戸配布した直後でしたし、学校関係をはじめ、準備の進んでいた団体、またバザー券を販売していた婦人会等には大変ご迷惑をおかけしました。が、被害の大きさ、そして多くの行事が次々と中止されていく中で、文化祭だけを例外というの

得ず、みなさまのご理解をいただき決断をしたことでした。

実行委員会を組織し、準備の段階から参加団体の協力が確立され、手づくりの文化祭として定着している「志度支部」の文化祭であり、さらには、本年度から団体より事務局を補充、強化して準備に当たっていただけに心残りがありますが、次年度開催へのリハーサルだったと思わなければならないのかも知れません。

ところが、三月二十七日(日)に開催が予定されている「さぬき源内ふるさとまつり」への参加依頼を同実行委員会よりいただき、音楽・芸能部門の一部ではあるものの、文化祭の組織を機能させるべく、にわか準備をすすめているところで、できる限りの協力をさせていただこうと思つているところです。

また、会報「志度の文化」につきましましてはこれまで第十八号を発行していますが、きびしい予算上、発行の是非について常に論議されているところではあります。しかし全戸配布をし、また、さぬき市外からも「志度支部」の活動の象徴として認知されているので可能な限り発行したい、というのがみなさ

んの思いであり、本年度につきましても文化祭の報告はないものの、活動状況の紹介等を含め、編集委員会で煮詰めることになっていきます。

研修会につきましては、これまでの役員研修を改め、昨年度からは会員の研修会に変更をして実施しています。なるべく多くのみなさんに参加をしていただき視野を広げること、他の文化活動の現状を把握すること、しつかりとした認識を持つて活動することができると思つたからです。そのためにも、やはり可能な限り多くのみなさんの参加が適当と判断したからであります。

ちなみに、昨年度は直島町を訪問し、直島町文化協会の松田武重会長さまはじめ、会員のみなさまのご案内で、数々のすばらしい施設を見学させていただきました。山林火災の直後、そして環境センター(中間処理施設)の事故のため稼働停止中、というアクシデントがあったものの、快く私たちを迎えてくださった、みなさまの心の深さを思つたことです。なによりも、交流の場を設けていただけたことはありがたく、お互いの活動状況の紹介や、今後の問題点に

ついて意見交換できたことは、必ずこれからの活動にプラスになるものと信じております。離島というハンディを背負った直島町、そのことを克服していく過程には幾多の困難があつたと思ひますが、充実した施設に恵まれた現在、独自の文化が大きく息づいているすばらしさに感嘆せずにはいられません。

本年度は、一月十二日開催の役員会で訪問地を確定する予定ですが、主に関西方面への美術鑑賞がメインになろうかと思ひます。研修はもちろん、知識を吸収するためのものですが、ひとつのことに心をかたむけることにより、共有意識が介在し、連帯感が生まれるのも事実でありましょう。

支部制が存在する限り、支部活動を充実させるとともに、広い見識を持って、さぬき市文化協会本会への参加が求められます。これまで、志度支部が培ってきたものを大切にしながら共通認識として、さぬき市文化協会を育て上げることが文化活動に携わる私たちの責務ではないかと思つたのです。

